

事務事業名	可燃ごみ焼却処理事業	事業期間	2001 ~	年度	係内番号	01
担当部署	市民環境部	美サイクルセンター	業務係	連絡先	380	

計	政策番号	03	基本計画	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高						
			基本計画①		01	環境基本計画	0401	循環型まちづくりの推進								
			基本計画②		01	環境基本計画	0401	循環型まちづくりの推進								
			実行計画		02	一般廃棄物（ごみ）処理基本計画	0000	複数の柱にまたがる事業								
画	予算事業名	塵芥処理費一般経費					会計コード	01	款	04	項	02	目	02	事業	02
	事務事業の概要	茅野市、富士見町、原村の可燃ごみを共同処理するため、諏訪南行政事務組合で諏訪南清掃センターを設置・運営している。可燃ごみの収集及びセンターまでの運搬は構成市町村が行い、諏訪南清掃センターでは搬入された可燃ごみを焼却処理し、その焼却灰を茅野市最終処分場及び南諏衛生施設組合最終処分場に運搬する。予算は市の一般経費及び諏訪南行政事務組合が行う清掃センターの運営経費やリサイクルセンター設置（2021年度稼働予定）や最終処分場整備（2020年度より事業化予定）の負担金														
	現状と背景	平成9年度に一般廃棄物焼却施設のダイオキシン類排出量が全国排出量の約61.5%に達する状況となり、ダイオキシン類規制法（平成11年7月16日制定）が施行された。これにより、南諏衛生施設組合（富士見町、原村）で使用していた焼却場は基準をクリアできなくなり、3市町村の可燃ごみの広域処理を諏訪南清掃センターで開始した。														
	目的	受益者	茅野市、富士見町、原村の一般家庭住民及び可燃性一般廃棄物を排出する事業者													
L	対象	対象	茅野市、富士見町、原村の3市町村													
	的意	的意	茅野市、富士見町、原村から排出されるすべての可燃性一般廃棄物を適正に処理する。													
	手段・方法	手段・方法	計画的な点検修理を実施して焼却プラントの処理能力を維持し、計画する年間稼働日数内において、搬入される可燃ごみのすべてを焼却処理する。 リサイクルセンターの建設については、2019年度に造成工事を行い本体工事も着手し2021年度稼働開始を目指す。 最終処分場の整備については、自区内処理を基本方針とし、2020年度に施設整備の基本設計の着手を目指す。 ごみ減量化の取り組みとして、2019年度に雑紙回収袋を作成し、イベントや会議、施設見学の小学生に袋を配布し雑紙の分別推進に取り組む。また、リサイクルセンター稼働時に硬質プラスチックを可燃ごみから資源物へ切替を行う。													
	評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値									
A	活動指標	1	プラントの処理能力を維持するための計画的な点検	点検回数	回	点検マニュアルに定められた回数	12									
		2	季節変動するごみ量に対応した計画運転	施設稼働日数	日	「施設稼働日数」=310日/年	310									
		3														
	変更履歴															
成果指標	成果・効果は何？		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値										
	1	搬入されるすべての可燃ごみの処理	年間ごみ焼却量	トン	年間ごみ焼却処理量	14,787										
	2															
変更履歴																

実	施	状	項	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
			事業費等(a)	円	223,354,697	272,106,480	408,257,000			
			財源内訳	円						
			国庫支出金	円						
			県支出金	円						
	地方債	円								
	その他特定財源	円	148,000	897,990	4,367,000					
	一般財源	円	223,206,697	271,208,490	403,890,000					
	況	指	活動指標	点検回数	目標	12	12	12		
				実績	12	12				
				達成率	100.00	100.00	-	-		
			施設稼働日数	目標	310	310	310			
			実績	310	310					
			達成率	100.00	100.00	-	-			
D	成	果	指標	年間ごみ焼却量	目標	14,787	14,787	14,787		
				実績	16,431	16,480				
				達成率	89.99	89.73	-	-		
			備考	目標	-	-	-	-		
				実績	-	-	-	-		
				達成率	-	-	-	-		

事務事業名	可燃ごみ焼却処理事業		事業期間	2001	～	年度	係内番号	01
担当部署	市民環境部	美サイクルセンター	業務係				連絡先	380

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	（成変果動指要標因分）析		目標値は2020年度のごみ焼却量となっている。ごみ焼却実績量は、搬入剪定木のウッドチップ化、木製家具類の資源化により前年比で約500トン減少した。	目標値は2020年度のごみ焼却量となっている。個人の持ち込みが増えたため、ごみ焼却実績量が増加した。		
価値	成果	計画どおり施設の点検を行った結果、休止することなく施設が稼働され、適正なごみ処理を実施することができた。	計画どおり施設の点検を行った結果、休止することなく施設が稼働され、適正なごみ処理を実施することができた。			
	総合評価課題	目標値は2020年度のごみ焼却量のため、2018年度実績の減少量の2年度分では目標値に達成しないため、更なるごみ減量化に向けた取り組みが必要である。	目標値は2020年度のごみ焼却量のため、2018年度実績の減少量の2年度分では目標値に達成しないため、更なるごみ減量化に向けた取り組みが必要である。			
改革	翌々年度方向性	成果 拡充	拡充			
	コスト	拡大	拡大			
改善の方向性	内容及びコストの方向性の内容	ごみの焼却量は減少傾向であり、低コストによる雑紙回収袋の作成を行い、雑紙の分別を推進し更なるごみ減量化に取り組む。	ごみの焼却量は減少傾向であり、低コストによる雑紙回収袋の作成を行い、雑紙の分別を推進し更なるごみ減量化に取り組む。			

作成担当者	守屋正弘	武居直樹			
最終評価責任者	保科慎一	伊東一英			
最終評価年月日	2019年5月17日	2020年7月3日			